

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401459		
法人名	特定非営利活動法人しまばら		
事業所名	グループホームたけふえ 1棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江丁2591-2		
自己評価作成日	令和 3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中でも家族とのかかわりを持ちLINEでの状態報告や動画などを活用しメッセージのやり取り、テレビ電話の使用により面会が困難な場合でも家族間の繋がりを持てるようにしている。また、介護ロボットの導入により利用者様、職員の負担減、効率化を図ることにより利用者様との関りを多くもち各ユニットごとに利用者様が寛げる空間を提供しています。またユニットごとに飾り付けや担当を決めユニットでの特色なども出していけるよう入居者様と一緒に活動や制作に取り組んでいます。状況に応じ個別でのドライブや買い物対応、モバイルを用いたアプリケーションでのレクリエーションや活動の実施。個人のチェックシートは閲覧時にわかりやすいように作成し利用者様の必須項目などケアプランに沿ったチェックシートを作成しサービス提供をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊かな自然に囲まれた場所に位置し、旅館風の造りと手入れの行き届いた坪庭は、利用者と職員、来訪者を和ませてくれる。今年度、全職員で決めた目標「不十分を十分に、十分を十二分に」の下、各職員が自分に必要なことを目標に掲げ、スキルアップに取り組んでいる。外国籍の介護士や技能実習生等雇用しており、職員アパートを完備し、養成校と連携し受入れを行い、介護職員育成に繋げていることは特長である。コロナ禍以前から玄関に設置しているタブレットや家族向けのLINE、介護業務用アプリなどITを駆使した取組みに加え、介護ロボットやコロナ感染時対策として陰圧装置の設置等、明確な活用目的を持った導入は強みと言える。LINEは、利用者の暮らしぶりを写真や動画で伝えるだけでなく、家族の要望や困りごと等汲み上げるツールとなっている。管理者の心配りにより、家族の思いの汲み上げと職員が働きやすい職場環境整備が窺え、利用者や職員の明るい笑い声に包まれている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームたけふえ 1棟
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に関しては、地域の行事などに参加し事業所を知ってもらう機会を持つようにしている。また、職員は利用者の声に耳を傾けて話を聞くようにしている。	理念「ともに喜び、支え合い、誇りを大切にし、心と体の力を発揮しながら暮らせる家庭的な場を提供すること」に沿い、毎年全職員で事業所目標を立て、理念の具現化に努めている。外国籍の職員には、わかりやすい言葉で説明したり、マンツーマンで指導する等、理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃や地域の行事にも積極的に参加しようと希望あるもコロナウイルス感染予防の為、外部への参加を控えている。状況に応じて参加は考えている。	毎月市の広報紙が届くため、その際に地域の情報を得ており、鬼火に参加している。また、運営推進会議の議事内容を自治会に報告している。近隣住民とは顔なじみであり、一人で外に出た利用者への見守り協力がある。現在、子どもとの交流はないものの介護実習生を受入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や清掃活動は状況に応じて利用者と一緒に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、書面で開催しているため意見やアドバイスなどは少ないも情報は発信している。家族には挨拶文と一緒に議事録を送付している。	新型コロナ感染拡大予防のため、書面にて2ヶ月に一度開催している。利用者の状況や事業所の活動報告等まとめ、家族と参加メンバーに報告しており、電話での会話だけでなく、行政は委任状にコメントを記している。ただし、議事録にメンバーの意見に記載がなく、確認できない。	運営推進会議の本来の意義として、より多くの意見をもらい運営に活かしていくことが重要である。書面会議においても、意見を収集し運営に活かす仕組みづくりに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者との交流は多く持つようにしており、協力関係は出来ている。	後見人制度や生活保護支援など必要に応じて行政担当者と情報交換し、協力体制を築いている。事業所は、行政主催のオンライン研修を受講する他、島原半島地域包括ケア計画に則って高齢者福祉の施策を進めるなど、サービス向上を目指した協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	訪問者の確認、不審者の侵入防止の為、玄関チャイムは設置しているが、自由に出入り出来るようにしている。身体拘束に関しては、委員会、研修、勉強会通じ、全職員で理解した上で取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置している。	事業所は、全職員が身体拘束をしないケアの実践を徹底するよう研修を行っている。職員ミーティングで車椅子利用者の移動スペースは確保できているか、服薬状態は良好かなど、日々確認している。法人の管理者ミーティングで事例を確認し身体拘束廃止委員会を設けて検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での勉強会や研修、法人での積極的に参加し虐待に対して職員の意識付け委員会での検討。また、職員間の声掛けや利用者の観察を常に行い、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会や研修会など学ぶ期間を設けている。必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者やご家族の質問に十分な説明を行い、理解して頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご家族との会話の機会を設けている。モバイルを用いたLINEでの近状報告や要望に対応している。又、玄関入り口にiPadを使用し意見箱の設置している。	利用開始時、相談・苦情窓口について説明している。玄関に意見箱とタブレットを設置している。コロナ禍で家族との面会は玄関先で対応したり、SNSを用いて利用者の近況を伝えながら、家族の意向を汲んでいる。医療機関受診、一日のトイレの回数を教えてほしい等の個別の要望に応え、サービス向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや介護ミーティングの際など日頃から職員と話し声を聞き入れている。また、ミーティングの他、必要に応じ個別の面談も実施している。	スタッフミーティングや介護ミーティング等で、職員は意見や提案を行っている。管理者ミーティングでは、現場職員の意見を法人内上層部で共有し、運営に反映している。職員の気づきから、必要備品の購入を検討している。外国籍の職員の語学力を高める取組みの他、適切な人員配置等、職員の希望を汲んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年間目標を立て、その目標に向かっていけるよう面談や会話にてアドバイスや相談にのっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加に関しては希望を取ったり、個人の力量に応じて参加を勧めている。それに伴い、勤務体制も整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEBでの勉強会を通じて他のグループホームや病院などとの交流の場を設けたり、研修会などに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から生活歴や趣味等の情報を把握し話を聞くようにしている。また、利用者同士のコミュニケーションの架け橋となるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時から家族が困っている事、不安な事を聞き、家族としての希望をじっくり伺い、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所や他のサービスも説明し、その時に必要な支援を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設を生活の場としてとらえるよう、簡単な家事を一緒に行なっている。それによって職員も利用者から教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにご家族に情報伝達を行い、共に情報を共有している。コロナウイルスの為、面会が困難な場合はLINEにて情報の共有や伝達をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊はご家族からの申し出があれば制限していない。また、ドライブや友人の面会も自由である。保証人以外からの外出、外泊の要望については保証人へ許可をとり支援している。	利用開始時、生活歴について本人・家族から情報を得ている。得た情報は、フェイスシートにまとめ、職員間で情報共有している。現在、新型コロナ禍のため面会制限があり、家族の面会は玄関で対応している。また、オンラインを活用した面会も積極的に取り入れている。馴染みの場所への外出は、感染予防を万全にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間が集まりやすいように空間づくりや活動の支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化、病気等での入院退所の際は退院後の受け入れ先や再入所等の先を見据えた検討なども含め家族の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン更新時にADLの見直しをおこない利用者一人一人の心身状況、身体状況などを把握して生活リズムに合わせたサービスを検討している。	職員は日々利用者に寄り添い、会話や表情から思いや意向を汲んでいる。わからない時には家族の協力も得ている。本人の希望に合わせて衣服を購入に出掛けたり、編み物や園芸等の趣味の継続が確認できる。事業所では24時間シートを活用し、本人の思いや意向の記述を基に支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴などの情報収集を行い、回覧し職員が把握するよう努めている。また、入所の際に馴染みの家具等を持ち込める事を説明し、出来るだけ生活環境を変えない工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの週間サービス表を活用するとともに日誌に記録として残すことで職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時に会議を行い本氏の状況、状態を確認し検討、結論、課題を明確化し計画書に反映させている。期間の終了前や本人の状態(入退院時)に応じて見直しを行なっている。	長期12ヶ月短期6ヶ月の目標を立て、計画作成担当者が作成している。介護計画に沿った個別のケアプラン実施記録シートを作成し、日々の暮らしぶりや計画実施状況を確認しており、モニタリングに活かしている。見直し時は、本人・家族の意向を反映し、会議にて職員と検討している。本人・家族に計画内容を説明し、同意を得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に残し全職員が共有し把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要なので柔軟な支援を行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生、高校生のボランティアや実習の受け入れも対応可。また、行事等で必要に応じて警察や消防等の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望を重視し、継続してかかりつけ医にて受診している。その際、職員が付き添い、医療機関との連携がとれるようにしている。	本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医への継続受診を支援している。基本的に職員が通院介助しており、都度受診内容を家族に報告している。皮膚科・歯科の往診も可能である。週1回訪問看護師による健康管理も行っており、夜間緊急時、管理者の判断の下、利用者が適切な医療が受けられるよう職員は支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって健康管理は十分に行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には随時、面会を行い本人の状態を把握できるようにしている。医療機関との連絡体制もとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族や関係者との話し合いの場を設け、方向性を検討している。	重要事項説明書に重度化した場合と看取りに関する指針を記載し、契約時に説明して同意を得ている。事業所では、主治医や家族との協力体制が整えば、看取り支援を行うこととしている。利用者の状態の変化に応じて、医師、家族と話し合いを重ね、医療機関や他施設への移行も含め意向を聞き、できる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修や事業所の年間勉強会に取り入れながら何度も訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防訓練を行っている。又、必要に応じて実施、検討している。	年2回、地域の消防団と連携して避難訓練を行っている。全職員で警報機・消火器の取扱い方を練習している。自然災害等に備えて近隣の公民館への避難経路確保、自家発電機や持ち出し用品の準備などの対策を講じている。ただし、夜間想定訓練は実施していない。	災害は昼夜を問わず起こりうるものである。特に夜間は普段見慣れた環境と異なる状況が生じられると思われる。そこで夜間想定訓練の実施の他、避難経路確保等計画作成が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を第一に考え、話し方や対応には十分に配慮するよう全職員で取り組んでいる。	居室に表札を掲げることで、利用者にとって居室が自身のプライベート空間であることを意識できるよう工夫している。外国籍技能実習生に向けて英語表記やルビ付きのマニュアル、守秘義務誓約書を準備している。職員は、利用者を様付けで呼び敬語で対応する等、人格を尊重しながら支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ会話や傾聴により、本人の思いや気持ちを聞きだしたりするようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を念頭におき、個々のペースで過ごして頂けるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設には定期的に美容院よりカットや顔そりに来ているが、地域の行きつけの美容院に行く方もいる。また、イベントや外出時、希望の方には化粧など行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に聞き取りを行ったり、個々のレベルに合わせて食事準備や片付けも一緒に行っている。個別の外食などの支援も行っている。	食事は、就労支援事業所へ委託し提供している。事業所では、一人ひとりの嗜好に合わせ、ご飯の硬さを調整したり、刻み・ミキサー食など準備している。法人の給食向上委員会が各施設の盛付けや提供状況を確認し、アドバイスをを行っている。流しそうめんやクリスマス等、季節行事の特別メニューの日もあり、食事を楽しむ工夫がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員と一緒に食べる事によって摂取量のチェックが出来ている。水分においてはいつでも提供できるよう好みに応じて準備している。居室で過ごす方にも定期的に配茶を行っている。また、食事摂取量が気になる方は体重の増減と共に記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアを徹底している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。また、失敗しない方でオムツやリハビリパンツ使用だった方もショーツ、パットに変更し自立支援に向けたケアを行っている。	職員は、トイレで座位による排泄を介助している。排泄状況は排泄チェックに記録し、利用者が失敗しないよう介助方法を検討している。時間で誘導したり、本人の表情を見ながらトイレ介助を行っている。利用者の習慣を優先しながら、失敗しない安心感を持てるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や果物を多く摂ってもらったり、本人に無理のない程度の運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本2日に1回の入浴の予定だが本氏の希望により入浴したい場合には入浴、清拭、更衣などを随時声掛けしている。バイタル測定時に希望者を募り、対応している。	週3回、入浴日を設けている。拒否時は無理強いせず、声掛けや時間を変え対応している。職員は、利用者が安心して湯に浸かれるようサポートしており、入浴を楽しめるよう歌を歌ったり、会話している。入浴日以外には足浴とマッサージを行う等、利用者が安眠できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて自室にて休んでもらっているが状況に応じて、休息の場を別に準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別の薬ファイルを作成し、一覧出来るようにしており職員が確認出来るようにしている。薬の副作用に関しては利用者の症状変化に気をつけ、何か変化があれば直ぐに主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力量の応じて洗濯物畳みや花付け、野菜の収穫等楽しみながら参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に買い物や墓参り等、希望時は直ぐに対応するよう努めているが、業務の都合上即時、対応出来ない場合もある。	天候や体調に応じて、事業所の敷地内を散歩している他、園芸を中庭で楽しむ利用者もいる。新型コロナウイルス感染予防を講じながら、病院受診の帰りに買い物やドライブ等、外出支援を行っている。また、家族の要望を受けて、墓参りへの同行支援を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個々の力量に合わせ家族に相談している。施設預かりの場合は支払い時等、一緒にしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話ともに自由としている。希望があれば代弁や代筆も対応している。またLINEサービスを利用し日々の状態報告や写真や動画の提供もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や物を飾り季節感を大切にしよう努めている。ユニットごとに飾り担当がいて基節の飾りつけなど実施している。	事業所内の採光は良く、開放感がある。坪庭や玄関に生けた花々から季節を感じることができる。利用者は畳の間にある炬燵で横になったり、リビングでコーヒーを飲んだり、ソファでテレビ鑑賞する等好みの場所で寛いでいる。壁紙の張替えや定期的にワックス掛けを行い、職員による毎日の清掃・換気で快適な空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、独りの空間は保たれている。また、各ユニット内では気の合う仲間が自由に行き来出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前と変わらない生活を送ってもらえるよう、家具などの持ち込みは自由としている。	各居室の入り口には木製の表札があり、自室と確認できる工夫がある。好みのものの持ち込みは自由であり、テレビや衣装ケース、家族写真や携帯電話等自由に配置している。洗濯物を干したり、趣味の編み物を楽しむ姿も窺える。毎日職員が清掃・換気、空調管理を行い、居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には十分留意して自立した生活が送れるような工夫をしている。介護ロボットの導入によりコール対応なども迅速に対応できる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記六）】

事業所番号	4271401459		
法人名	特定非営利活動法人しまばら		
事業所名	グループホームたけふえ 2棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江丁2591-2		
自己評価作成日	令和 3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中でも家族とのかかわりを持ちLINEでの状態報告や動画などを活用しメッセージのやり取り、テレビ電話の使用により面会が困難な場合でも家族間の繋がりを持てるようにしている。また、介護ロボットの導入により利用者様、職員の負担減、効率化を図ることにより利用者様との関りを多くもち各ユニットごとに利用者様が寛げる空間を提供しています。またユニットごとに飾り付けや担当を決めユニットでの特色なども出していけるよう入居者様と一緒に活動や制作に取り組んでいます。状況に応じ個別でのドライブや買い物対応、モバイルを用いたアプリケーションでのレクリエーションや活動の実施。個人のチェックシートは閲覧時にわかりやすいように作成し利用者様の必須項目などケアプランに沿ったチェックシートを作成しサービス提供をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に関しては、地域の行事などに参加し事業所を知ってもらう機会を持つようにしている。また、職員は利用者の声に耳を傾けて話を聞くようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃や地域の行事にも積極的に参加しようと希望あるもコロナウイルス感染予防の為、外部への参加を控えている。状況に応じて参加は考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や清掃活動は状況に応じて利用者と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイイル感染予防の為、書面で開催しているため意見やアドバイスなどは少ないも情報は発信している。家族には挨拶文と一緒に議事録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者との交流は多く持つようにしており、協力関係は出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	訪問者の確認、不審者の侵入防止の為、玄関チャイムは設置しているが、自由に出入り出来るようにしている。身体拘束に関しては、委員会、研修、勉強会通じ、全職員で理解した上で取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での勉強会や研修、法人での積極的に参加し虐待に対して職員の意識付け委員会での検討。また、職員間の声掛けや利用者の観察を常に行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会や研修会など学ぶ期間を設けている。必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者やご家族の質問に十分な説明を行い、理解して頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご家族との会話の機会を設けている。モバイルを用いたLINEでの近状報告や要望に対応している。又、玄関入り口にiPadを使用し意見箱の設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや介護ミーティングの際など日頃から職員と会話し声を聞き入れている。また、ミーティングの他、必要に応じ個別の面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年間目標を立て、その目標に向かっていけるよう面談や会話にてアドバイスや相談にのっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加に関しては希望を取ったり、個人の力量に応じて参加を勧めている。それに伴い、勤務体制も整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEBでの勉強会を通じて他のグループホームや病院などとの交流の場を設けたり、研修会などに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から生活歴や趣味等の情報を把握し話を聞くようにしている。また、利用者同士のコミュニケーションの架け橋となるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時から家族が困っている事、不安な事を聞き、家族としての希望をじっくり伺い、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所や他のサービスも説明し、その時に必要な支援を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設を生活の場としてとらえるよう、簡単な家事を一緒に行なっている。それによって職員も利用者から教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにご家族に情報伝達を行い、共に情報を共有している。コロナウイルスの為、面会が困難な場合はLINEにて情報の共有や伝達をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊はご家族からの申し出があれば制限していない。また、ドライブや友人の面会も自由である。保証人以外からの外出、外泊の要望については保証人へ許可をとり支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間が集まりやすいように空間づくりや活動の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化、病気等での入院退所の際は退院後の受け入れ先や再入所等の先を見据えた検討なども含め家族の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン更新時にADLの見直しをおこない利用者一人一人の心身状況、身体状況などを把握して生活リズムに合わせたサービスを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴などの情報収集を行い、回覧し職員が把握するよう努めている。また、入所の際に馴染みの家具等を持ち込める事を説明し、出来るだけ生活環境を変えない工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの週間サービス表を活用するとともに日誌に記録として残すことで職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時に会議を行い本氏の状況、状態を確認し検討、結論、課題を明確化し計画書に反映させている。期間の終了前や本人の状態(入退院時)に応じて見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に残し全職員が共有し把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要なので柔軟な支援を行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生、高校生のボランティアや実習の受け入れも対応可。また、行事等で必要に応じて警察や消防等の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望を重視し、継続してかかりつけ医にて受診している。その際、職員が付き添い、医療機関との連携がとれるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって健康管理は十分に行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には随時、面会を行い本人の状態を把握できるようにしている。医療機関との連絡体制もとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族や関係者との話し合いの場を設け、方向性を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修や事業所の年間勉強会に取り入れながら何度も訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防訓練を行っている。又、必要に応じて実施、検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を第一に考え、話し方や対応には十分に配慮するよう全職員で取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ会話や傾聴により、本人の思いや気持ちを聞きだしたりするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を念頭におき、個々のペースで過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設には定期的に美容院よりカットや顔そりに来ているが、地域の行きつけの美容院に行く方もいる。また、イベントや外出時、希望の方には化粧など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に聞き取りを行ったり、個々のレベルに合わせて食事準備や片付けも一緒に行っている。 個別の外出などの支援も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員と一緒に食べる事によって摂取量のチェックが出来ている。水分においてはいつでも提供できるよう好みに応じて準備している。居室で過ごす方にも定期的に配茶を行っている。また、食事摂取量が気になる方は体重の増減と共に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアを徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。また、失敗しない方でオムツやリハビリパンツ使用だった方もショーツ、パットに変更し自立支援に向けたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や果物を多く摂ってもらったり、本人に無理のない程度の運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本2日に1回の入浴の予定だが本氏の希望により入浴したい場合には入浴、清拭、更衣などを随時声掛けしている。バイタル測定時に希望者を募り、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて自室にて休んでもらっているが状況に応じて、休息の場を別に準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別の薬ファイルを作成し、一覧出来るようにしており職員が確認出来るようにしている。薬の副作用に関しては利用者の症状変化に気をつけ、何か変化があれば直ぐに主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力量の応じて洗濯物畳みや花付け、野菜の収穫等楽しみながら参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に買い物や墓参り等、希望時は直ぐに対応するよう努めているが、業務の都合上即時、対応出来ない場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個々の力量に合わせ家族に相談している。施設預かりの場合は支払い時等、一緒にしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話ともに自由としている。希望があれば代弁や代筆も対応している。またLINEサービスを利用し日々の状態報告や写真や動画の提供もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や物を飾り季節感を大切にするよう努めている。ユニットごとに飾り担当がいて基節の飾りつけなど実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、独りの空間は保たれている。また、各ユニット内では気の合う仲間が自由に行き来出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前と変わらない生活を送ってもらえるよう、家具などの持ち込みは自由としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には十分留意して自立した生活が送れるような工夫をしている。介護ロボットの導入によりコール対応なども迅速に対応できる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401459		
法人名	特定非営利活動法人しまばら		
事業所名	グループホームたけふえ 3棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江丁2591-2		
自己評価作成日	令和 3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中でも家族とのかかわりを持ちLINEでの状態報告や動画などを活用しメッセージのやり取り、テレビ電話の使用により面会が困難な場合でも家族間の繋がりを持てるようにしている。また、介護ロボットの導入により利用者様、職員の負担減、効率化を図ることにより利用者様との関りを多くもち各ユニットごとに利用者様が寛げる空間を提供しています。またユニットごとに飾り付けや担当を決めユニットでの特色なども出していけるよう入居者様と一緒に活動や制作に取り組んでいます。状況に応じ個別でのドライブや買い物対応、モバイルを用いたアプリケーションでのレクリエーションや活動の実施。個人のチェックシートは閲覧時にわかりやすいように作成し利用者様の必須項目などケアプランに沿ったチェックシートを作成しサービス提供をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に関しては、地域の行事などに参加し事業所を知ってもらう機会を持つようにしている。また、職員は利用者の声に耳を傾けて話を聞くようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃や地域の行事にも積極的に参加しようと希望あるもコロナウイルス感染予防の為、外部への参加を控えている。状況に応じて参加は考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や清掃活動は状況に応じて利用者と一緒に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイイル感染予防の為、書面で開催しているため意見やアドバイスなどは少ないも情報は発信している。家族には挨拶文と一緒に議事録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係者との交流は多く持つようになり、協力関係は出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	訪問者の確認、不審者の侵入防止の為、玄関チャイムは設置しているが、自由に出入り出来るようにしている。身体拘束に関しては、委員会、研修、勉強会通じ、全職員で理解した上で取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での勉強会や研修、法人での積極的に参加し虐待に対して職員の意識付け委員会での検討。また、職員間の声掛けや利用者の観察を常に行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会や研修会など学ぶ期間を設けている。必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者やご家族の質問に十分な説明を行い、理解して頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご家族との会話の機会を設けている。モバイルを用いたLINEでの近状報告や要望に対応している。又、玄関入り口にiPadを使用し意見箱の設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや介護ミーティングの際など日頃から職員と会話し声を聞き入れている。また、ミーティングの他、必要に応じ個別の面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年間目標を立て、その目標に向かっていけるよう面談や会話にてアドバイスや相談にのっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加に関しては希望を取ったり、個人の力量に応じて参加を勧めている。それに伴い、勤務体制も整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEBでの勉強会を通じて他のグループホームや病院などとの交流の場を設けたり、研修会などに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から生活歴や趣味等の情報を把握し話を聞くようにしている。また、利用者同士のコミュニケーションの架け橋となるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時から家族が困っている事、不安な事を聞き、家族としての希望をじっくり伺い、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所や他のサービスも説明し、その時に必要な支援を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設を生活の場としてとらえるよう、簡単な家事を一緒に行なっている。それによって職員も利用者から教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにご家族に情報伝達を行い、共に情報を共有している。コロナウイルスの為、面会が困難な場合はLINEにて情報の共有や伝達をおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊はご家族からの申し出があれば制限していない。また、ドライブや友人の面会も自由である。保証人以外からの外出、外泊の要望については保証人へ許可をとり支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間が集まりやすいように空間づくりや活動の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化、病気等での入院退所の際は退院後の受け入れ先や再入所等の先を見据えた検討なども含め家族の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン更新時にADLの見直しをおこない利用者一人一人の心身状況、身体状況などを把握して生活リズムに合わせたサービスを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴などの情報収集を行い、回覧し職員が把握するよう努めている。また、入所の際に馴染みの家具等を持ち込める事を説明し、出来るだけ生活環境を変えない工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの週間サービス表を活用するとともに日誌に記録として残すことで職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時に会議を行い本氏の状況、状態を確認し検討、結論、課題を明確化し計画書に反映させている。期間の終了前や本人の状態(入退院時)に応じて見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に残し全職員が共有し把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要なので柔軟な支援を行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生、高校生のボランティアや実習の受け入れも対応可。また、行事等で必要に応じて警察や消防等の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望を重視し、継続してかかりつけ医にて受診している。その際、職員が付き添い、医療機関との連携がとれるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師によって健康管理は十分に行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には随時、面会を行い本人の状態を把握できるようにしている。医療機関との連絡体制もとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、本人、家族や関係者との話し合いの場を設け、方向性を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修や事業所の年間勉強会に取り入れながら何度も訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防訓練を行っている。又、必要に応じて実施、検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を第一に考え、話し方や対応には十分に配慮するよう全職員で取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ会話や傾聴により、本人の思いや気持ちを聞きだしたりするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を念頭におき、個々のペースで過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設には定期的に美容院よりカットや顔そりに来ているが、地域の行きつけの美容院に行く方もいる。また、イベントや外出時、希望の方には化粧など行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に聞き取りを行ったり、個々のレベルに合わせて食事準備や片付けも一緒に行っている。 個別の外出などの支援も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員と一緒に食べる事によって摂取量のチェックが出来ている。水分においてはいつでも提供できるよう好みに応じて準備している。居室で過ごす方にも定期的に配茶を行っている。また、食事摂取量が気になる方は体重の増減と共に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアを徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。また、失敗しない方でオムツやリハビリパンツ使用だった方もショーツ、パットに変更し自立支援に向けたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や果物を多く摂ってもらったり、本人に無理のない程度の運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本2日に1回の入浴の予定だが本氏の希望により入浴したい場合には入浴、清拭、更衣などを随時声掛けしている。バイタル測定時に希望者を募り、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて自室にて休んでもらっているが状況に応じて、休息の場を別に準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別の薬ファイルを作成し、一覧出来るようにしており職員が確認出来るようにしている。薬の副作用に関しては利用者の症状変化に気をつけ、何か変化があれば直ぐに主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力量の応じて洗濯物畳みや花付け、野菜の収穫等楽しみながら参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に買い物や墓参り等、希望時は直ぐに対応するよう努めているが、業務の都合上即時、対応出来ない場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個々の力量に合わせ家族に相談している。施設預かりの場合は支払い時等、一緒にしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話ともに自由としている。希望があれば代弁や代筆も対応している。またLINEサービスを利用し日々の状態報告や写真や動画の提供もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や物を飾り季節感を大切にするよう努めている。ユニットごとに飾り担当がいて基節の飾りつけなど実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、独りの空間は保たれている。また、各ユニット内では気の合う仲間が自由に行き来出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前と変わらない生活を送ってもらえるよう、家具などの持ち込みは自由としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策には十分留意して自立した生活が送れるような工夫をしている。介護ロボットの導入によりコール対応なども迅速に対応できる。		